外からの刺激を受けると滞っている感性に風が吹く

Work life balance

未来工業
営業部 広告宣伝課
係長
鈴木龍也さん（44歳）

趣味としての作品

未来工業での作品

私が担当している業務は、自社製品のカタログ、チラシ、取扱説明書などのデザインです。休みは会社一斉の年140日と、そのほか有給休暇も8割くらい消化しています。

今の会社に来るまでは、4社で勤めましたが、どこも働き過ぎが当たり前の職場でした。夜9時半に退社したり、月4日しか休みがなかったり。それに人を活かす方向ではなく、切ろうとする方針を感じました。そんな環境で、子育てにも関われず悩んでいたところ、妻の父が新聞の折り込みチラシで未来工業の求人を見つけて、勧めてくれたんです。

休日には、家族とデパートに行ったり、公園に行ったり、息子が一人いるのですが、よく一緒に過ごしましたよ。おかげで、息子とは信頼関係を築けたので、あまり反抗期のようなものもなく、親に隠し事はしないですし、彼女の事も話してくれます（笑）。家によく友達も連れてくるので、うちの息子はこういう面が足りないな…といった事も見えてきます。

それから趣味で絵（アクリル絵の具）も描いていて、VIE A DARTというグループにも参加しています。そこの仲間とは、よきライバル関係です。あいつこんないい絵を描いている、こんな考え方もあったのかという気づきもあります。ここに参加すると、滞っている感性に風が吹く感じがします。

クリエイティブな仕事だとどうしても自分の趣味を出してしまいがちですが、私は休みに自分の趣味は徹底して追求しているので、仕事では自分を抑えて、商品を全面に出していかに商品がよく見えるかという視点で制作に没頭できます。それから、休日に得た感性で自分が活性化するのがよく分かりますし、お金をかけなくても光るものづくりをポリシーに、見やすいデザインを心がけています。

未来工業では、ノルマもありませんし、脅迫観念がないので、伸び伸びとできます。広告宣伝課でこなさなければならない仕事が終わらないとみんなが帰れないので、社員同士で技術を教え合ったり、互いに技術の平均化を図っています。

Profile

［プロフィール］

高校を卒業後、会社員になるが、残業と休日出勤続きで子育てにも関われない日々が続き、4度の転職を経験。1991年、27歳のとき未来工業入社。社内デザイナーとして、製品パンフレットなどの企画・制作を担う。